

学 園 報

No.54

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>
 富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>
 富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/>
 富山国際大学付属高等学校 URL <https://www.tuins-h.ed.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

能登半島地震



理事長
 金岡 克己

1月1日マグニチュード7.6の令和6年能登半島地震が発生し、能登地方のみならず、富山県、新潟県に大きな被害をもたらしました。

富山県は地震の少ない県です。2022年までの10年間の有感地震の回数は47都道府県最少でした。また、過去100年、震度5以上の記録は、1930年大聖寺地震、2007年能登半島地震の2回です。

日本の陸地面積は世界の0.5%未満ですが、マグニチュード6以上の地震の20%が発生する地震大国です。プレートテクトニクスによれば、地球表面は14-15枚のプレートに覆われ、日本周辺にはその内の4枚（大陸2枚、海洋2枚）が轟めいています。

日本の地震は海溝型と内陸型に大別されます。海溝型地震は、日本列島の乗る大陸プレートの下に、マン托ルの熱対流により海洋プレートが潜り込むことが原因です。その移動速度は年数cm、100年で数メートルに達します。海溝型地震の規模は大きく、その周期は数十年から数百年とされます。一方、富山県周辺で起こる地震は内陸型で、断層面が動く形で発生します。海溝型に比べ歪みの蓄積速度は遅く、活動周期は数千年から数万年です。

日本には約2000の活断層があります。富山県中央部の断層が呉羽山断層帯です。（独）産業技術総合研究所が編纂する活断層DBには、長さ32km、地震後経過率0.58、将来活動確率0.6%等の記載があります。推定マグニチュードは7.2、能登半島地震の1/4の規模です。注意すべきは、断層線が井田川沿いに北東に進行しており、富山市中心部を直撃する恐れがあることです。

大きな災害で問題となるのが復旧復興対策です。東

日本大震災では、10年間で32兆円の復興予算が計上されました。私たちは令和19年度までの25年間、復興特別所得税を負担しています。この巨額の国費投入により、防潮堤、道路、住宅などハードウェアの整備は進みました。一方、人口流出は止まらず、身近な生活基盤、コミュニティが失われているようです。

輪島市の1960年人口は57,244人。地震直前2024年1月の推計人口は21,903人と実に62%の減少です。なお、この間、石川県全体の人口は増えています。

「教訓を語り継ぐ」との言葉を耳にします。しかしながら、何が教訓なのかは漠としています。東日本大震災が示す実状をどう理解し行動すればよいのか、復興の議論には重い課題が突き付けられています。

地震報道で気を付けていたのは、生徒、児童の教育環境です。受験等を控え、避難先の学校に通う生徒の姿が報道されました。しかしながら、GIGA School構想で配備された一人一台の情報デバイスの活用の報道はないように感じました。被災直後は無理として、電源とインターネット、情報デバイスがあれば、遠隔での授業や情報交換を試みることができたのではないかとこの思いがあります。

インターネットの原型 ARPANET は、核攻撃を想定し開発したとも伝わる分散システムです。拠点が一カ所破壊されても通信可能なネットワークです。災害時等において、インターネットの有する特質をどう生かせばよいのか、身近な生活基盤の維持とともに、情報環境の復旧と活用について、検討の余地が残されているといえましょう。

CONTENTS

- 能登半島地震 理事長 金岡 克己 … 1
- 特集1 『開学60周年記念誌』に見る富山短期大学の「不易流行」
 『富山短期大学開学60周年記念誌』編集チームリーダー 望月 健一 … 2
 富山国際大学付属高等学校開校60周年記念事業について … 3

- 特集2 日本全国に広がる学びの輪！富山国際大学が『福井大学大学院連合教職開発研究科』に加盟
 富山国際大学子ども育成学部 学部長 松山 友之 … 4
- 令和6年度入試状況・令和5年度進路状況等 …… 5
- 学園退職者・新任者一覧 …… 5
- 令和6年度予算概要 …… 6～7
- 学園 NEWS …… 8

『開学60周年記念誌』に見る富山短期大学の「不易流行」

『富山短期大学開学60周年記念誌』編集チームリーダー 望月 健一

まず、『開学60周年記念誌』編集にあたり、短大のすべての部署の方々に原稿執筆、データ作成、事実確認など、様々なかたちでご協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。特に宮田伸朗前学長・名誉教授には全体の要となる原稿を寄稿していただいた上に、編集上、貴重な助言をいただき、心より感謝しております。

今回の記念誌は開学記念日を大幅に過ぎてからの発行となりましたが、時間を要した要因は、執筆担当者・編集チームともに高い水準の内容を求めたために、双方による校正作業が膨大であったことでした。特に新旧交代の激しい時期にあった短大教職員にとって、短大の「今」ではなく「歴史」を語ることはこの上なく難しい点でした。

何とか記念誌が「歴史」を語り始めたと思われた頃、ふと思ひ浮かんだのは「不易（ふえき）流行（りゅうこう）」という言葉でした。この四字熟語のルーツは、江戸時代の歌人、松尾芭蕉です。真藤建志郎編『四字熟語の辞典』（日本実業出版社）の記述によると、「不易は、詩的生命の基本的永遠性を有する体。流行は、詩における流転の相で、その時々の新風の体。平たくいえば、不変のものと変わるものこと。この二体は、ともに風雅の誠から出るものであるから、根本においては一に帰すべきものであるという考え方」です。

この言葉は今日、文学のみならず教育、ビジネスなど幅広い分野において使われており、例えば、平成8年7月の文部省審議会答申『21世紀を展望した我が国の教育の在り方について』には「これからの社会はこれまで我々が経験したことの無い速さで、かつ大きなものとなるとの認識に立って、豊かな人間性など「時代を超えて変わらない価値のあるもの」（不易）を大切にしつつ、「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」（流行）に的確かつ迅速に対応していくという理念の下に教育を進めていくことが重要である」とあります。

今回の記念誌において、「流行」を端的に表すものは、まず記念誌の表紙です。これは、開学60周年の時点で本学は、4学科1専攻の専門分野を擁し、アクティブ・ラーニングを主体とする教育方法に変わっていることから、かつての時代と大きく様変わりしていることを示しています。「1. (3) ICT化の推進」の表

1からは、本学において短期間の間に情報関連事業が着々と進められてきていることが実感されます。「6. 入試・広報」からは、受験生の多様化によってオープンキャンパスや学生募集が本質的な部分においても様変わりしていることが読み取れます。また、「8. 学科10年間の歩み」では、各学科におけるカリキュラム改変、以前には考えられなかったコロナ禍におけるオンライン授業の様子が克明に記録されています。

これに対して、本学の「不易」の部分の筆頭は、建学の精神でしょう。開学以来4回の改正を経ていますが、根本的に変わっておらず、最近の認証評価でも各学科の教育目的が建学の精神に基づいて定められ、学内外に公表されていることが確認されました（『記念誌』p.2）。また、2回の認証評価では共通して、「特に優れた取り組み」としてWebシラバス・システムによる学習成果の可視化、Webボランティア手帳システムによるボランティア活動の推進が高く評価されました。地域・貢献活動や統一書式の就職先訪問報告書を使った就職先からの意見聴取も定着しています。そして何よりも変わっていないことは、本学が「教育型の短期大学」（p.1）であることでしょう。ごあいさつ「60年を振り返って」で、金岡克己理事長はカントの言葉「人間は教育されなければならない唯一の被創造物である」（p.3）を引用されています。奇しくも同じ記念誌の巻末資料「富山短期大学50年の記録」では、金岡祐一前理事長がやはりカントの「人間は教育によってのみ人間になることができる」（p.86）という言葉が引用されています。これらの文言は、いずれもカントの弟子リンクがカントの教育学講義の覚書やメモを整理編集して公刊した『イマヌエル・カント、教育学について』からの引用です。これらの2つの文は、ニュアンスは別として意味するところはほとんど同じですが、同じ出典の中の別の文です。本学園の新旧理事長が同じ出典から引用をされており、改めて本学・本学園の教育への姿勢が時代を超えても脈々と受け継がれていることに気づかされた次第です。



富山国際大学附属高等学校 開校60周年記念事業について

1 教育環境アメニティ向上事業

SDGs への取り組みを学校の教育の柱としている本校の姿勢を明確に示すとともに、生徒のSDGsに取り組む意識と意欲を高めるために、教育環境などの充実を図ります。

①デジタルインジケーター付き自動給水器の設置

車いすでも利用できるバリアフリー仕様の自動給水器2台を、1階調理室前の廊下と、2階のエレベーター出入り口付近に設置しました。ペットボトルやカップを置くとセンサーが感知し、自動で360mlの冷水が注がれます。ペットボトル数に換算したそれまでの給水量をインジケーターで確認できるようになっており、ペットボトルごみ削減を実感できます。



国際英語コースが語学研修を行ったポートランド州立大学に、SDGsの取り組みとして同様の給水器が設置されており、それに感銘を受けた生徒たちが導入の提案をしてくれました。

②サーモステンレスボトルの全校配布

給水器の設置に合わせて、オリジナルデザインの図柄をあしらった保冷保温機能付きステンレスボトルを全校生徒に配布しました。ペットボトルごみの削減に向けて意識の向上を図ります。



2 実績と魅力発信事業

本校の過去10年間の歩みを振り返ることで、他校とは明確に異なる本校の強みと魅力を確認するとともに、新たな10年に向けて本校の特色を発信します。

①記念誌作成事業

開校50周年以降の10年間の本校の歴史をコンパクトにまとめた記念誌の作成を予定しています。

②広告宣伝・発信事業

横断幕や懸垂幕などを作成し、本校が開校60周年を迎えることを広くPRします。また、講演会や文化祭に際して、60周年記念の催事であることを発信します。

日本全国に広がる学びの輪！富山国際大学が「福井大学大学院連合教職開発研究科」に加盟

富山国際大学子ども育成学部 学部長 松山 友之

2024(令和6)年1月23日(火)福井大学において、「福井大学大学院福井大学・岐阜聖徳学園大学・富山国際大学連合教職開発研究科に関する構成大学間協定」の調印式が行われました。

福井大学 上田孝典学長、岐阜聖徳学園大学 観山正見学長、本学の高木利久学長が協定書に署名し、協定を締結しました。これにより富山国際大学は、福井大学を基幹校とする連合教職大学院に加わり、大学院の機能を持つことになりました。

調印式では、高木学長より、「『連合教職開発研究科に関する構成大学間協定』に新たに加わったことで、本学の学生や富山県の教員の方が、連合開発研究科の特色である『学校拠点方式』による小・中・高・特別支援学校などの現場での学びを通じて実践力やマネジメント力、専門職としての技量を培う道を得ることができました。教職に従事する方々の指導力、実践力、応用力の向上に貢献し、教育現場、中でも、富山県における学校教育の課題解決に、富山国際大学が少しでもお役に立てればと願っております。」と挨拶がありました。

この大学院の大きな特徴は、全国でも数少ない先進的な「学校拠点方式」であるという点です。大学を卒業して直ぐにこの大学院に入学した学生は、すでに教員免許を取得しているため実際の学校現場での授業に携わることができる上に、大学院生として現場の先生方と同じ意識で学校課題の解決のための研究に取り組むことができます。また、現在学校現場で教職に就いておられる先生方にとっては、勤務校を離れることなく働きながら勤務先の学校課題や教育実践を、大学院の学び・研究として取り上げ、修士の学位を得てキャリアアップを図ることができます。

さらに北は北海道から南は沖縄まで、同じ目的意識を持つ日本全国の現場の先生方とオンラインでカンファレンスを行い話し合ったり、対面で意見交換をしたりするなど、協働的に学べる環境が整備されている点も特徴で、

全国に仲間を持てると共に学びの輪も広がり、更には広範囲にわたる研究のネットワークを築くことができます。

2024(令和6)年4月6日(土)の入学式後の開講式には、全国からオンライン参加を含む多数の学生や現職の先生方に加えて富山県の公立小学校に勤める現役の先生も参加され、開講式直後から早くも活発な意見交換が交わされていました。

富山国際大学が福井大学大学院連合教職開発研究科に加入したことにより、富山県での学校教育の質的向上のための拠点として、今後、本学が担う役割は更に重要度を増すこととなります。



2024(令和6)年1月23日(火)福井大学での調印式(右端が高木学長)



2024(令和6)年4月6日(土)の入学式後の開講式の様子

令和6年度入試状況

大学

(令和6年4月3日現在)(単位:人)

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	234	234	209	97
子ども育成	90	207	206	185	89
合計	210	441	440	394	186

短大

(令和6年4月3日現在)(単位:人)

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	88	87	84	68
幼児教育	80	74	74	73	61
経営情報	110	150	148	147	107
健康福祉	40	28	28	28	27
食物栄養専攻	15	8	8	8	8
合計	325	348	345	340	271

※経営情報学科の合格者数には、第二志望合格者を含む

高校

(令和6年4月8日現在)(単位:人)

コース	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	2クラス	195	195	61
特進コース	2クラス	521	521	68
フロンティアコース	5クラス	441	441	182
合計	9クラス	1157	1157	311

令和5年度進路状況

(令和6年5月1日現在)(単位:人)

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	113	107	107	100	0
子ども育成	93	85	85	100	5
合計	206	192	192	100	5

(令和6年5月1日現在)(単位:人)

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者	研究生
食物栄養	80	79	79	100.0	1	/
幼児教育	84	82	82	100.0	1	
経営情報	115	103	103	100.0	7	
健康福祉	30	27	27	100.0	2	
食物栄養専攻	12	5	5	100.0	0	
合計	321	296	296	100.0	11	8

※研究生のうち、1名は就職決定者を含む

(令和6年3月31日現在)(単位:人)

大学	合格者	入学者	短期大学	合格者	入学者	その他	合格者	入学者	卒業生
富山国際大学	29	15	富山短期大学	21	19	専修各種学校	64	61	268
国公立大学	25	22	公立短期大学	0	0	就職	14	14	
他の私立大学	205	117	他の私立短期大学	16	14	その他		6	
合計	259	154	合計	37	33	合計	78	81	

令和6年度入園児童

幼稚園

(令和6年4月1日現在)(単位:人)

	男	女	合計
3歳児	14	12	26
4歳児	0	0	0
5歳児	1	0	1
合計	15	12	27

※新入園児のみ

令和5年度卒園児童

(令和6年3月31日現在)(単位:人)

	男	女	合計
5歳児	14	14	28

◆退職者一覧(令和6年3月31日付)

- 〈大学〉渡部 恵子(現代社会学部 教授)
 ※令和5年9月30日付
 若田 範司(教育研究部学務課長 入試担当)
 ※令和5年10月31日付
 林 敏江(現代社会学部 教授)
 辻井 満雄(子ども育成学部 教授)
 福島美枝子(子ども育成学部 教授)
- 〈短大〉藤井 隆(事務部庶務課 運転手兼校務助手)
 ※令和5年5月31日付
 井坂 友紀(経営情報学科 准教授)
 ※令和5年9月30日付
 望月 健一(幼児教育学科 教授)
 長田 元(経営情報学科 講師)
 水井 修(参事・学生部就職支援センター長)
 吉田 聡(事務部 事務部長・学園本部事務局次長)
 西島 美佳(学生部就職支援センター 主査)
- 〈高校〉宮本 郁絵(主査) ※令和5年7月31日付
 中田 悟(地歴・公民 教諭)
 南 佳克(事務長)
- 〈幼稚園〉開上 彩香(教諭)

◆新任者一覧(令和6年4月1日付)

- 〈大学〉細岡 和香(教育研究部学務課 学生支援担当 主事)
 ※令和5年10月1日付
 申 英蘭(現代社会学部 准教授)
 申 英姫(現代社会学部 講師)
 萩中 泰弘(子ども育成学部 教授)
 金 仙玉(子ども育成学部 准教授)
 吉崎 理香(子ども育成学部 准教授)
- 〈短大〉山下 裕介(経営情報学科 准教授)
 ※令和5年10月1日付
 五十嵐 泰(事務部庶務課 運転手兼校務助手)
 ※令和6年3月19日付
 安嶋まなみ(食物栄養学科 教授)
 山田 尚平(幼児教育学科 講師)
 藤本 治男(事務部 事務部長・学園本部事務局次長)
- 〈高校〉砂田 正樹(理科 講師)
 鈴木 豊(理科 講師)
 朽木 夏也(地歴・公民 講師)
- 〈幼稚園〉横江奈々子(教諭)

令和6年度 予算概要

令和6年度の事業計画及び予算は、去る3月28日開催の評議員会・理事会において承認されました。

各校の主な事業計画及び予算の概要は以下のとおりです。

【事業計画】

【大学】

- ①教育の質保証の向上をめざし、アクションプランに基づく多様な取り組みを推進
- ②外部資金の積極的な獲得
- ③国際化教育及び情報教育の充実を図り、ITや5Gを活用したスマートキャンパス化を推進【現代社会学部】
- ④保育・教育・福祉の人材育成及び情報教育の推進を図り、現代社会学部と連携したスマートキャンパス化を推進【子ども育成学部】
- ⑤大学改革、新規事業、危機管理などへの効率的な対応を推進

【短大】

- ①多様な入学生の受け入れ・確保に努め、教育の質保証と学生支援サービスの向上のための多様な取り組みを推進
- ②各学科の実践的専門教育の質の向上を図り、ICT教育を充実
- ③大幅な学内組織改編を行い、学园内連携・協働を強化
- ④時代の変化に即した短大運営と改革、事業の見直し、危機管理などの諸課題への効率的な対応を推進

【高校】

- ①国際化教育及びICT教育を推進し、きめ細かい学習指導を実施
- ②「批判的思考力」「考え抜く姿勢」「実践力」を養い、課題解決力のあるグローバルリーダーを育成
- ③魅力ある教育サービスの提供のための教育環境整備

資金収支予算書

令和6年4月1日から
令和7年3月31日まで (単位：千円)

	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	差 異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,809,867	1,920,931	△ 111,064
	手数料収入	37,855	39,757	△ 1,902
	寄付金収入	1,503	1,503	0
	補助金収入	631,649	615,447	16,202
	資産売却収入	1	1	0
	付随事業・収益事業収入	28,408	28,274	134
	受取利息・配当金収入	2,320	2,320	0
	雑収入	75,970	36,312	39,658
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	446,890	451,630	△ 4,740
	その他の収入	80,195	121,279	△ 41,084
	資金収入調整勘定	△ 549,640	△ 506,970	△ 42,670
	前年度繰越支払資金	1,053,453	1,076,247	△ 22,794
	収入の部合計	3,618,471	3,786,731	△ 168,260
支出の部	人件費支出	1,684,541	1,639,017	45,524
	教育研究経費支出	715,557	754,844	△ 39,287
	管理経費支出	160,357	159,455	902
	借入金等利息支出	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0
	施設関係支出	35,179	30,248	4,931
	設備関係支出	61,337	77,623	△ 16,286
	資産運用支出	4,512	4,512	0
	その他の支出	127,395	150,500	△ 23,105
	【予備費】	15,500	15,500	0
	資金支出調整勘定	△ 136,000	△ 107,000	△ 29,000
	次年度繰越支払資金	950,093	1,062,032	△ 111,939
	支出の部合計	3,618,471	3,786,731	△ 168,260

事業活動収支予算書

令和6年4月1日から
令和7年3月31日まで (単位：千円)

	科 目	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	差 異
教育活動収支	学生生徒等納付金	1,809,867	1,920,931	△ 111,064
	手数料	37,855	39,757	△ 1,902
	寄付金	3,506	3,506	0
	経常費等補助金	631,649	615,447	16,202
	付随事業収入	28,408	28,274	134
	雑収入	75,969	36,311	39,658
	教育活動収入合計(1)	2,587,254	2,644,226	△ 56,972
	人件費	1,688,541	1,643,017	45,524
	教育研究経費	1,041,557	1,072,844	△ 31,287
	管理経費	165,156	164,254	902
徴収不能額等	2	2	0	
教育活動支出合計(2)	2,895,256	2,880,117	15,139	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 308,002	△ 235,891	△ 72,111	
教育活動外収支	受取利息・配当金	2,320	2,320	0
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入合計(4)	2,320	2,320	0
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出合計(5)	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,320	2,320	0	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 305,682	△ 233,571	△ 72,111	
特別収支	資産売却差額	2	2	0
	その他の特別収入	3,603	3,603	0
	特別収入合計(8)	3,605	3,605	0
	資産処分差額	6,100	6,100	0
	その他の特別損失	1	1	0
特別支出合計(9)	6,101	6,101	0	
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 2,496	△ 2,496	0	
【予備費】(11)	15,500	15,500	0	
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 323,678	△ 251,567	△ 72,111	
基本金組入額合計(13)	△ 28,729	6,059	△ 34,788	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 352,407	△ 245,508	△ 106,899	
前年度繰越収支差額(15)	△ 2,495,392	△ 2,478,644	△ 16,748	
基本金取崩額(16)	0	0	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△ 2,847,799	△ 2,724,152	△ 123,647	
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,593,179	2,650,151	△ 56,972	
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,916,857	2,901,718	15,139	

【幼稚園】

- ①幼稚園型認定こども園として、新たな幼児教育・保育ニーズに対応した取り組みを推進

【事業活動収支予算】

事業活動収支予算において、収入では、学生生徒等納付金 111 百万円減、手数料収入 2 百万円減などにより、事業活動収入計が 2,587 百万円（対前年度当初予算比 57 百万円減・2.2% 減）となりました。

支出では、人件費 45 百万円増などにより、事業活動支出合計が 2,895 百万円（同 15 百万円増・0.5% 増）となりました。また、基本金組入額 28 百万円余りを差し引いた当年度収支差額は、352 百万円の赤字予算となりました。

【資金収支予算】

資金収支予算において、令和 6 年度の学園が行う諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、付随事業・収益事業収入、令和 7 年度

入学生の前受金収入、令和 5 年度末の未収入金等が計上されています。一方、支出として、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、施設設備関係支出等が計上されています。その結果、令和 6 年度の諸活動に対するすべての収入・支出の資金として、3,618 百万円（同 168 百万円減・4.5% 減）が見込まれています。

【学園の財務状況】

学園の財務状況は、単年度ベースでは、昨年引き続き赤字予算となりました。

事業活動収入の中でも大学・短大において、学生生徒等納付金が前年度を下回ることを見込んだ予算となっているためです。本学園では、学生生徒等納付金と経常費等補助金が、収入の約 95% を占めています。従って、これらの予算を確実に確保しつつ、新たな収入源を確保すること、そして、支出予算の効率的かつ効果的な執行に努めなければなりません。

令和 6 年度部門別事業活動収支予算書

(単位：千円)

活動区分	科目	部 門	法 人	大 学	短 大	高 校	幼 稚 園	総 額
教育活動収支	収入業の活動	学生生徒等納付金	0	865,090	551,890	392,047	840	1,809,867
		手数料	0	14,113	11,412	12,300	30	37,855
		寄付金	1	1,502	3	1,000	1,000	3,506
		経常費等補助金	0	142,934	119,957	294,338	74,420	631,649
		付随事業収入	0	6,962	15,000	0	6,446	28,408
		雑収入	4,500	48,896	1,950	20,623	0	75,969
		教育活動収入合計(1)	4,501	1,079,497	700,212	720,308	82,736	2,587,254
	支出業の活動	人件費	34,447	642,664	499,598	454,047	57,785	1,688,541
		教育研究経費	41,800	417,258	332,774	206,401	43,324	1,041,557
		管理経費	10,750	70,097	60,061	23,152	1,096	165,156
徴収不能額等		0	1	1	0	0	2	
	教育活動支出合計(2)	86,997	1,130,020	892,434	683,600	102,205	2,895,256	
	教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 82,496	△ 50,523	△ 192,222	36,708	△ 19,469	△ 308,002	
教育活動外収支	収入業の活動	受取利息・配当金	2,020	200	100	0	0	2,320
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入合計(4)	2,020	200	100	0	0	2,320
	支出業の活動	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
	教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0	0	0	
	教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,020	200	100	0	0	2,320	
	経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 80,476	△ 50,323	△ 192,122	36,708	△ 19,469	△ 305,682	
特別収支	収入業の活動	資産売却差額	0	1	1	0	0	2
		その他の特別収入	0	1,000	1,003	1,000	600	3,603
		特別収入合計(8)	0	1,001	1,004	1,000	600	3,605
	支出業の活動	資産処分差額	0	2,500	3,000	600	0	6,100
		その他の特別損失	0	0	1	0	0	1
	特別支出合計(9)	0	2,500	3,001	600	0	6,101	
	特別収支差額(10)=(8)-(9)	0	△ 1,499	△ 1,997	400	600	△ 2,496	
	【予備費】(11)	2,000	5,000	5,000	3,000	500	15,500	
	基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	△ 82,476	△ 56,822	△ 199,119	34,108	△ 19,369	△ 323,678	
	基本金組入額合計(13)	10,431	2,494	△ 30,758	△ 10,696	△ 200	△ 28,729	
	当年度収支差額(14)=(12)+(13)	△ 72,045	△ 54,328	△ 229,877	23,412	△ 19,569	△ 352,407	
	前年度繰越収支差額(15)	—	—	—	—	—	△ 2,495,392	
	基本金取崩額(16)	—	—	—	—	—	0	
	翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	—	—	—	—	—	△ 2,847,799	

(参考)

事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	6,521	1,080,698	701,316	721,308	83,336	2,593,179
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	88,997	1,137,520	900,435	687,200	102,705	2,916,857

富山国際大学

4年ぶりに卒業記念パーティーを開催しました



(現代社会学部)

2024(令和6)年3月19日(火)、学位記授与式後に、4年ぶりの卒業記念パーティーが各学部で開催されました。

両学部共に豪華景品が当たるお楽しみ抽選会や、教員から卒業生に向けてのお祝いメッセージ動画の上映が行われました。各学部では趣向を凝らしたプログラムが進行するなか教員へのサプライズの花束贈呈もあり、大変な盛り上がりを見せました。

各会場では最後に卒業生と教員の記念撮影が行われ、和やかな雰囲気に包まれました。

教職員一同、卒業生の皆さまのご活躍を心より祈念しております。



(子ども育成学部)

富山短期大学

保育施設などへの就職を見据えた特別講義を行いました

2024(令和6)年2月5日(月)、富山県富山西警察署 生活安全総務係長 梅澤 夏樹氏をお招きして「保育園での不審者対応防犯研修と子どもたちへの防災教育の実際」というテーマで特別講義を実施しました。

保育者が子どもの生命を守る責任と根拠に基づいた対応を考えることを目的とし、不審者に対応するための防犯対策、富山県警察「安全情報ネット」の利用方法、防犯標語や園児向けのクイズなど、さまざまな面からお話しいただきました。

また、「さすまた」の効果的な使用方法について、学生を不審者のモデルにして実践的に教えていただくなど、今春から子どもたちの安全を確保する立場になる学生たちにとって、とても有意義な講義となりました。



富山国際大学附属高等学校

新入生を迎えて



本校は2024(令和6)年4月8日(月)に311名の新入生を迎え、入学式を挙行了しました。

仲井校長は式辞で、「英語とICTという2つのコミュニケーションツールを駆使し、何をどう考え、どう伝えるかという課題を意識してほしい」と、新入生に呼びかけました。金岡理事長からは、「多様性のある環境で、それぞれの個性を伸ばしてほしい」との激励がありました。そして、新入生代表の坂本美嘉(さかもとみか・芝園中学校出身)さんが、「自発的に深く学んで多くの人と交流し、ICTスキルも身につけたい。自分に何ができるかを考

えて視野を広げていきたい」と決意を述べました。

本校を選んでくれた生徒たちを国際人として最大限に成長させるため、教職員一同、尽力いたします。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

親子で遠足！～ファミリーパーク～

2024(令和6)年5月2日(木)、親子でファミリーパークへ行ってきました。天候も快晴となり遠足日和。各学年で記念写真を撮り、親子遠足がスタート！「うわ～いっぱいいる！」「餌食べてくれた！」「かわいい～」「ふわふわだあ！」「寝てるね」「上まで歩いた」とモルモットの大行進や餌やり体験など様々な動物の姿を通して、親子で楽しむ姿が見られました。また、山羊の目の形や雷鳥の数、レッサーパンダの名前等のクイズや熊の前のじゃんけん大会など、幼稚園のオリエンテーションコーナーを巡り、シールを集めた後は……親子で触れ合いダンスを楽しみました。青空の広がる下で親子や、友だちと動物を通して絆を深められるよい機会となりました。

